

うるおい

第15号
2022年7月

瓢湖の蓮



職員より提供

第15号発行に際してのご挨拶

7月となり、今年も暑い夏を迎えましたが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

前号発行時には予想もできなかったロシアによるウクライナへの軍事侵攻が世界を震撼させ、日々の報道に胸を痛め、我々が何気なく享受している平和が、決して当たり前でないことを実感することになりました。

健康も同様であり、元気であることは決して当たり前ではなく、日々の自己管理、健康を維持する努力が重要であることを再認識しなければなりません。

新型コロナウイルス感染は、収束が見通せず、連日多数の感染者が報告されていますが、社会活動の制限は行わずに、共存の道歩んでいます。海外交流も拡大され、経済活動は活性化されるものと思いますが、新たな変異型の発生も危惧され、基本的感染予防策は今後も継続する必要があります。

ワクチン接種は、3回目に引き続き、60歳以上の高齢者や基礎疾患を持つ人を対象に、4回目の接種が始まっています。

当院としましては、これまで同様に感染予防策を徹底し、安心して療養していただける環境を維持できるよう努めて参ります。

さて、当院の開院は1974年11月1日であり、2年後に開院50周年を迎えます。この長い歴史とともに施設の老朽化も進みました。抜本的な対策として、2016年春から第2病棟の移転新築工事を行い、その後第1病棟の移転新築など、病棟を中心に改修工事を順次進めました。その後は管理部門、外来等の改修を計画していましたが、新型コロナウイルス感染の拡大により中止していました。

しかし、新型コロナウイルス感染と共存し、制限の緩和が進む社会状況となりましたので、開院50周年を目標として、この秋より改修工事を進めることにしました。

診療に支障がないように配慮しながら工事を進めますが、ご不便をおかけすることがあろうかと思えます。お詫び申し上げますとともに、ご協力をお願い申し上げます。



脳神経センター阿賀野病院

院長 近藤 浩

神経難病の患者さんの脳で起きていることは？



診療部長 豊島 靖子

当病院は多くの神経難病の患者さんが受診・療養されています。神経難病には、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などがあり、いずれも発症の原因がわからない手強い病気です。それぞれの病気で異なりますが、身体の動きにくさ(筋力低下、バランス不良、動きがゆっくりになるなど)、自律神経症状(便秘、立ちくらみなど)、認知症(記憶障害、判断力低下など)は比較的良好にみられる症状です。それでは、このような症状はなぜでてくるのでしょうか。

成人の脳は1,200~1,300g ほどで、約1,000億個の神経細胞からなると言われています。神経細胞本体と、そこから出る導線のようなもののかたまりが脳で、神経細胞同士が導線で電気信号をやりとりしています。脳はいくつもの部分に分かれ、分担して情報を処理し、またそれらの情報を統合して機能しているスーパーコンピューターです。年齢とともに神経細胞は減ってゆきますが、認知機能が保たれた高齢の方では、脳の重量が1,000g以下になることはありません。ところが、神経難病の患者さんは神経細胞の減るスピードが速く、脳が著しく縮んでしまうことがあります(図1)。とくに、アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症では強い脳の萎縮がみられます。この所見は脳のCTやMRIなどの画像検査で見ることができます。

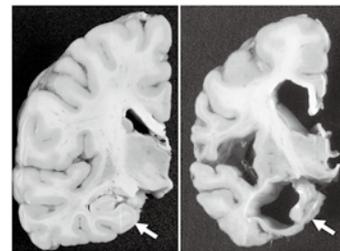
神経難病のうち、神経変性疾患とよばれる病気の方の脳を顕微鏡で観察すると、神経細胞が脱落して減ってしまった部分が明らかになります。患者さんの症状は、分担して働く脳の神経細胞の部分的な脱落の結果としておこってきます。例えば多系統萎縮症の患者さんでは身体のバランスをとることが難しくなりますが、それに関与する小脳や、スムーズな動きを司る大脳基底核という部分の神経細胞が脱落しています。認知機能の低下は大脳の神経細胞の減少で起こります。大脳の前頭葉の神経が脱落すると怒りっぽくなったり、意欲の低下がみられたりしますし、側頭葉の細胞がこわされると、言葉の理解が難しくなったり、記憶障害が出たりします。多くの疾患で発症から年数が経つと徐々に神経細胞の脱落部位が広がり、症状が進行してゆきます。脱落せず残った神経細胞を細かく観察すると、通常には無い物質が胞体内に溜まっているのがみえることがあります。近年この溜まっている物質の解析が進み、それぞれの疾患に特異的なもの

のとして認識されています。

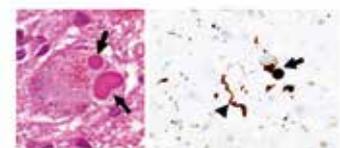
例を挙げると、パーキンソン病の方では α -シヌクレインという物質が溜まり、ヘマトキシリン-エオジン染色という染色で赤く見えます(図2左)。進行性核上性麻痺ではタウという蛋白が、筋萎縮性側索硬化症ではTDP-43という物質が溜まっています。少し専門的になりますが、これらの物質に対する抗体で脳の組織を免疫染色して観察すると、蓄積の部位や程度がとてもよくわかり、病理組織学的診断がしやすくなります。このパーキンソン病で観察されたものを抗体で免疫染色すると、黒くはつきりと見えます(図2右)。

これらの蛋白はそれぞれの病気の発症に関係していることが予想されていますが、残念ながらその機序はまだわかっていません。患者さんの脳の中でこれらの物質が通常よりたくさん作られてしまうために溜まるということや、これらの不要物質を分解する仕組みに異常がおこるため溜まるということが考えられています。

少しずつ病気の手がかりは見えてきています。世界中でもっと細かい観察法や、生化学、分子生物学などを駆使して日々研究が続けられています。いずれはこの難しい病気の発症機序が解明され、治療法の開発が進むことでしょう。



(図1) 左大脳半球を輪切りにした図
左: 正常脳 右: アルツハイマー型認知症患者の脳
アルツハイマー型認知症では全体に瘦せて隙間が多く、記憶を司る海馬という部分(矢印)の萎縮が強い。



(図2) 顕微鏡でみたパーキンソン病の黒質神経細胞
左: 異常タンパクが溜まった部分が赤く見える(矢印)、右: 抗 α -シヌクレイン抗体を用いて免疫染色すると、溜まった物質が黒く見える。矢印は細胞内、矢頭は神経の突起内に異常に溜まった α -シヌクレイン。

職員紹介

新たに就任した病棟師長と主任、今年度入職の職員をご紹介します。
皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第3病棟 師長

石井 由紀子



看護師長として責任感を持ち、病棟スタッフをまとめ、皆様からの信頼、安心感を得られる行動を常に念頭におき、日々精進したいです。コロナ禍で面会できず、患者様は寂しい思いをされているかと思います。患者様が安心して穏やかに療養できる環境づくりに励み、誠心誠意努力していきたいです。

第1病棟 主任

捧 裕子



子供に障がいがありましたが、周囲の協力を得ながら仕事を続けることができました。また、皆さんの支えがあり日本看護学会では2回、神経学会でも研究発表を行うこともできました。今、その恩返しをする機会が来たと思っています。今後も知見を広め、患者様を支えるために尽力します。

第2病棟 看護師

山本 沙織



神経難病の患者様と関わるのは初めてで、不安もありますが、経験豊富な先輩方を見て日々勉強しています。患者様が安心して入院生活が送れるよう、多職種の方と情報共有し、患者様に合った方法で看護を提供していきたいです。趣味はバスケット観戦です。

第1病棟 看護師

中村 真由美



新しく職場を変えることに不安を抱きながら入職しました。今まで経験したことのない看護領域なので戸惑うことも多いですが、質の良い看護ができるような日々を送りたいです。好きな食べ物はラーメンです。

第1病棟 准看護師

杉山 朱香



私は社会人からこの春看護学校を卒業し、自身の知識・技術不足を日々痛感しています。先輩方にご指導いただきながらできることを増やし、1日でも早く業務を覚え、患者様に安全で安楽な看護ができるよう努力していきます。

臨床検査技師

小林 麗美



私は食べるのが大好きです。特にスイーツや韓国料理が好きなので、カフェ巡りや韓国へ行ってみたいです。仕事では、迅速かつ正確に検査を行い、病気の予防や診断、治療に役立てるよう努めますのでよろしくお願い致します。

患者さま 作品紹介

リハビリの一環として、折り紙や編み物などに取り組んでいます。
素晴らしい作品が数多くありますので、一部紹介します。



折紙作品「てんとう虫」



ペーパークラフト「バラ」



折紙作品「海」



手芸作品「ぬいぐるみ」



ペーパークラフト「スイレン」



手先の器用さ、作品のセンスに脱帽します

疲労回復レシピ ～夏の病院行事食アレンジメニュー～



うなぎの香味ご飯

材料(4人分)

うなぎの蒲焼	1串	酒	大さじ1
みょうが	1個	ごはん	2合
青じそ	5枚	うなぎのたれ	お好みで
白いりごま	大さじ1/2		
卵	2個		
水	大さじ1		
塩	少々		

1人分の 栄養価	エネルギー:479kcal たんぱく質:22.2g 脂質:18.5g 炭水化物:57.6g 食物繊維:1.3g 食塩相当量:1.1g ビタミンB1:0.55mg レチノール:953μg
-------------	---

所要時間
20分

今回は当院で提供している「うなちらし」のアレンジメニューとして、うなぎの香味ご飯を紹介したいと思います。

うなぎは免疫力を高めてくれるビタミンA(レチノール)や疲労回復に効果のあるビタミンB1などのビタミン類やミネラルが多く含まれている栄養価の高い食品です。昔から、暑さで体力を消耗し、食欲不振や身体がだるくなる夏バテにはうなぎを食べると良いとされ、夏の時期に多く食べられてきたそうです。

また、今回使用しているミョウガや青じそなどの香味野菜には消化を助ける働きがあり、爽やかな香りは食欲増進につながるため、夏におすすめの食材です。

作り方

- 卵をときほぐし水、塩を混ぜる。フライパンに油を薄く塗って弱火で熱し、溶いた卵を半量入れ薄焼き卵を作る。同様にもう1枚焼き、あら熱が取れたら3等分の帯状に切って端から幅5mmに切る。
- みょうがは小口切りにし、青じそは縦半分にして幅5mmの千切りにする。
- うなぎは耐熱皿にのせて酒をふり、ふんわりとラップをかけて電子レンジで2分ほど加熱し、幅1.5cmに切る。
- 器にご飯を盛り、ごまをふり、青じそ、薄焼き卵をちらす。うなぎを盛り、お好みでうなぎのたれ、みょうがをちらして完成。

外来のご案内 脳神経内科・内科・リハビリテーション科

受付時間 午前8時45分～11時30分(休診日 土・日・祝)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1診察室	近藤 浩	横関 明男	青木 賢樹	近藤 浩	佐藤 達哉
第2診察室	豊島 靖子	佐藤 達哉	(近藤 浩)	豊島 靖子	青木 賢樹
リハビリ テーション 外来					工藤 由理

※()の医師については、急患対応のみとなります。 ※都合により担当医が変更になることがありますので、詳細は受付までおたずねください。 ※なお、新患で受診ご希望の方はあらかじめお電話にてご予約をお願いいたします。受診時間などを相談させていただきます。

院内行事レポート

みなさまご存知のように、当院は豊かな自然に囲まれています。雄大な五頭連峰や季節を感じる花々、可愛らしい鳥のさえずりに心癒されます。天気が良い時には、患者さまと一緒に散歩をしています。コロナ禍で、外出が思うようにできない状況ですが、おいしい空気で気分をリフレッシュしています。



医療法人潤生会 脳神経センター阿賀野病院 広報誌

うるおい

第15号
2022年7月

■発行日 2022年7月4日
■発行人 院長 近藤 浩 ■編集 広報誌事務局
〒959-2221 新潟県阿賀野市保田6317番地15
脳神経センター阿賀野病院
電話 0250-68-3500 FAX 0250-68-3690
URL <http://www.agano.or.jp> メール info@agano.or.jp

広報誌「うるおい」へのご意見・ご感想は
広報誌事務局までお寄せください。

広報誌事務局

編集後記

暑い夏でもマスク着用が日常になって久しいです。当院でも長いこと外出や面会が禁止され、季節のイベントも開催されておらず、患者さまの入院生活はとても味気ないものになっていったと思います。そこで、少しでもストレス発散になればと、敷地内の季節の花を見ながらの散歩や、ご家族との窓越しやオンラインでの面会を実施してきました。毎週水曜日のカラオケ大会は、以前にも増して盛況です。

さて、今号では患者さまの作品を紹介しました。現在も新しい創作に取り組んでおり、作品はどんどん増えています。リハビリテーション室では月替わりで作品を展示しておりますが、人の出入りがなくなったため、誌面を発表の場として利用しました。状況が落ち着き、来院ができるようになったら、ぜひお立ち寄りください。